

第 39 回東京実技セミナー

基礎コース&スキルアップコース

開催報告



開催日時：H28年11月3日（木・祝）13時～17時までの実質4時間（受付12時20分～）

開催場所：ラックヘルスケア株式会社 東京オフィス

主催：NPO法人 口から食べる幸せを守る会®

共催：ラックヘルスケア株式会社

後援：株式会社クリニコ 日清オイリオグループ株式会社 渡辺商事株式会社 株式会社大塚製薬工場

<敬称略>

開催目的

高齢化社会において多様な疾患と様々な生活環境に伴い、現場における摂食嚥下障害患者へのアプローチに対するニーズはとて高い。

このような患者や患者家族の、「口から食べたい、食べさせたい」意思を最後まで尊重するためには、安全に食事をするためのアセスメントおよび適切な評価方法、そして食事介助技術が求められている。

本セミナーは、対象者を全人的に捉え、包括的な食支援に対する知識を学ぶとともに、安全、安楽、自立を促す食事介助の基本技術を習得してもらうこと、また困難症例に対する具体的なスキルアップを目的とした。

KTSM実技認定者（講師・アドバイザー）一覧

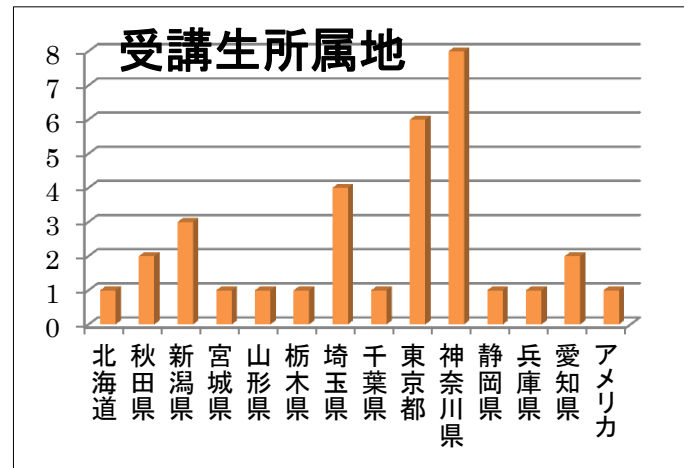
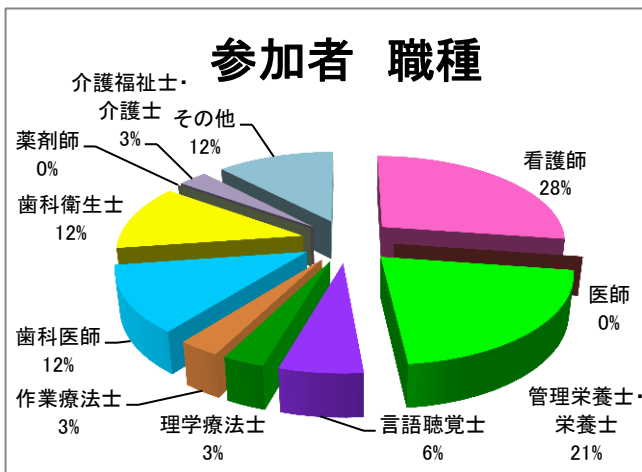
<敬称略>

氏名	所属	職種（摂食嚥下に関する資格）
小山珠美	NPO法人 口から食べる幸せを守る会® 理事長 JA神奈川県厚生連 伊勢原協同病院	看護師 日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士 KTSM実技認定者
竹市美加	NPO法人 口から食べる幸せを守る会® 副理事長 ナチュラルスマイル西宮北口歯科	摂食・嚥下障害看護認定看護師 KTSM実技認定者
黄金井 裕	NPO法人 口から食べる幸せを守る会® 理事 日本医科大学多摩永山病院	言語聴覚士 日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士 KTSM実技認定者
金 志純	社会福祉法人鶴風会 東京小児療育病院	摂食・嚥下障害看護認定看護師 KTSM実技認定者
甲斐明美	医療法人社団 東山会 調布東山病院	摂食・嚥下障害看護認定看護師 KTSM実技認定者

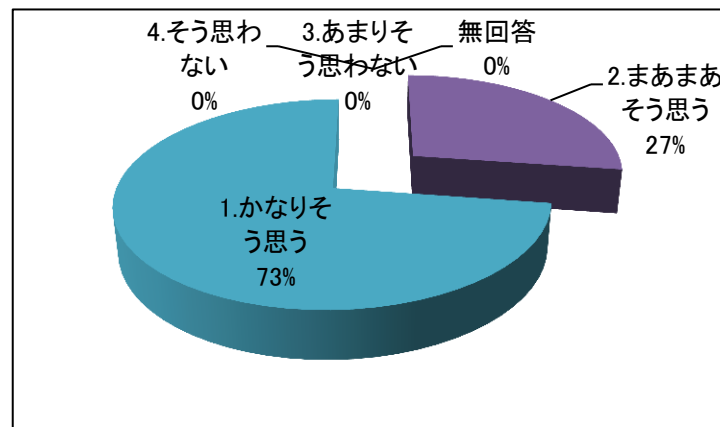
上野美幸	山梨市立牧丘病院	看護師 KTSM 実技認定者
山下ゆかり	医療法人社団永研会 ちとせデンタルクリニック	歯科衛生士 KTSM 実技認定者
佐藤作喜子	JA 神奈川県厚生連 伊勢原協同病院	管理栄養士 KTSM 実技認定者
剣持君代	群馬リハビリテーション病院	看護師 KTSM 実技認定者

アンケート集計結果 (参加者 34 名 回収率 97%)

Q1 職種と勤務先の都道府県



Q2 セミナーの内容はスキルアップにつながったか？



●対象の方や介助者により方法の違いが出てくる食事介助ですが、基準となるポイントを学習でき勉強になりました。

●食事介助の場面では、普段あまり介助を必要とする方が少ないため、介助技術を知れて勉強になった。もう少し参加回数を増やさないと自信は持てない。でも、実践していかなければ、自分のものにならないと

も思った。

●前回習った事がちょっと違っていて今回それに気付きました。

●自分次第なところが大きい

●勉強不足を痛感しました。無謀な気がしましたが、武者修行に来てよかったと思う。

●普段食事介助をすることは無いのですが、1つ1つの動作や角度がいかに重要な分かりました。

●基礎だけでなく応用も学ぶことができた

●実際にどのように評価したらよいかわからなかったのも、かなり参考になった

●頭では理解していても実際に出来ないことが多いと改めて分かりました。今後は担当病棟の食事介助に入れるように上司に相談し、正しい食事介助を介護助手さんや看護師さんへ伝えていきたいです。

●姿勢やスピード角度や視線様々なことが的確にならなくてはいけない

その人の状況に適応したやりかたなど

●前回学んだ内容を復習する事もでき、より身につけることが出来ました。

今後もまた参加させて頂きたいと思います。

●姿勢の整え方を再確認し、2本スプーンの介助方法を確認することができたよ。

●実地指導で自分の技術の間違いを直接指導して頂けた。質問に対しても講師の方を始め、他参加者の方から色々教えて頂けた所良かった。

●今日習ったことは基礎の基礎として、とても参考になりました。ただ、まだまだ奥が深そうです。

●円背の方の体位や認知症で覚醒にムラのある患者を想定して、実際に演習して学ぶことができたから。

●初めて介助を行ったが、なぜその姿勢でやるのか、なぜ不適切なやり方では行けないのか、

患者側に回ることによって感覚的に理解することができた。

●今まで知らなかったことや勘違いしていたことが多いことに驚きました。もっと詳しく先生からお話を聞きたかったが、時間が足りなかった。

●だんだん、なァなァになってきていることがあり、いい確認になりました。

時々、矯正ではないですが、ネジを締め直さないといけないと思います。

●知らないことだらけでした。食事介助は、配慮すべき点がたくさんあることを知りました。また、同時に無知のまま介助をすることは恐ろしいことだともわかりました。しかし、そういうことに気づくチャンスは、素人は特にですが、医療関係者の方々もあまりないのではないだろうかと思いました。だからこの講座で正しい介助方法を知ることができてよかったです。一方、正しい介助は訓練次第で習得し、さらには技術向上ができるものだという事もわかりました。介助される全ての方が、この講座の存在を知り、正しい知識が広まればいいなと、切に思います。

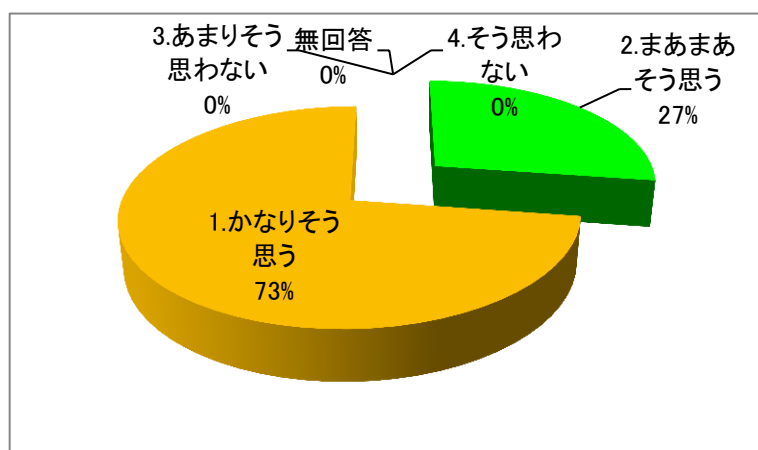
●日々の実践していても、技術を指導していただける機会が少ない。自分流の方法で行っているため、注意すべき点が明確になった。

●患者役で実際に、患者から見える風景や違和感、心地良さ感を体験できた

●講義や書籍だけの学習では、分かっているようで分かっていなかった部分がありましたが、実体験することで、目から鱗がたくさんありました。

食べさせられる側に立って、食事介助を行うスプーンの扱い方は、とても参考になりました。また、姿勢を安定させることが大事な点は、タオルを使って隙間をなくしたり、頭頸部の姿勢とクッションの使い方など実際に見ることができてよかったと思います。

Q3 セミナーの内容は実践の場で活用できるか？

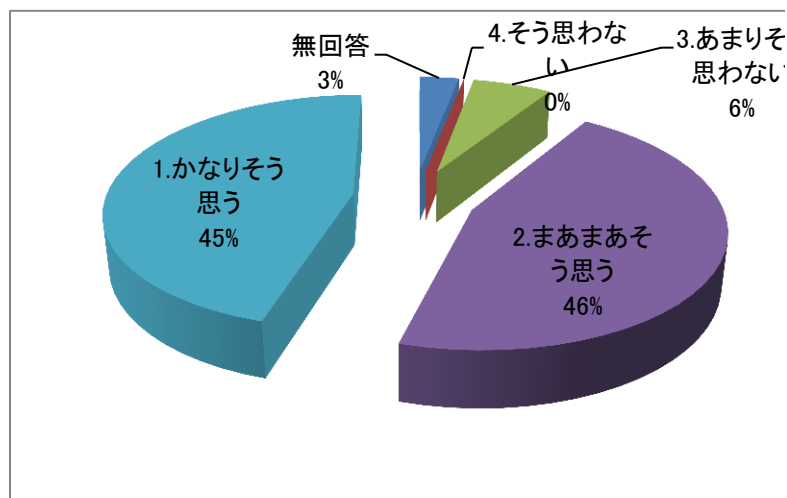


- 食形態の変更の評価の際に活用できると思います
- 昼食時は看護師さんの休憩回しがあるため人手が不足している現状があります。そのため、食べきれないまめ他の業務に入ることもあります。たった1人かもしれませんが、管理栄養士が食事介助に入ることです少くとも食事環境を整えられればと考えます。
- 誤嚥予防の観点から食べさせかたの基礎になります
- 在宅ではチームでこの知識を共有するところから始めなければならない事が課題ですが、まず自分でチャートをつけ、評価するところから始めたいと思います。
- 食事介助のばめんやスタッフ指導
- 訪問先の介護老人福祉施設にて、食事介助に携われる。一緒に考えて行ける。
- 胃瘻で退院してきた患者さんのアセスメント、また、ご家族へのアドバイスに活用したいと思います。
- 普段の食事介助、ご家族への指導
- 食事介助の院内勉強会
- 業務中に介助の様子を見ていてもどこが間違っているのか、どうすればいいか分からなかったが、明日からは患者側に回って考えることができると思う。
言語聴覚士と一緒に、正しい食事介助の勉強会など開催できたらと思う。
また管理栄養士の仕事である不要な絶食にさせないためのアプローチを適切にして、患者さんの家族にこのセミナーに参加させる必要がないようにしたいと思う。
- 患者さんの食事介助をする機会、正しい姿勢を整えられるようになりそうだった。家族などへの指導はまだ理解が不十分なのでできなそうだった。
- 実際には、指導する立場なのでスクリーニングは行うのですが、食事介助の機会がなかなか取れません。意識して実施するようにしないといけないとは思っています。
- 当面は介助する機会はないですが、いつか必要となったとき、今日の経験は必ず活かします。
- 嚥下評価の際、頸部聴診を行っていなかった。手技について復習し、マスターしたい。また、食事介助のアシスト方法について、今回はじめて教えていただいた。患者様の残された機能をいかし、個々に必要な介助方法を検討し実践していきたい。
- ベッド上介助の頭部位置の補正・・・食事が見えるように具体的に視線を追うことが必要

車いす介助時、ひじ固定、スプーンの挿入角度

- まずは入院患者への食事介助を実践してみたい。そして、在宅への退院時栄養指導や訪問栄養指導をする際に、食事形態だけでなく、ポジショニングや介助方法なども合わせてアドバイスできればと思う。
- 全介助を場面では、さっそく実践していこうと思います。

Q4 自ら企画しようと思うか？



- まずは、同職種と内容の再確認から始めます
- 多職種の共通言語としてKTチャートを普及させるための行動をしたい。
- 黄金井さんもいる病院なので、皆で企画して行えたらと思います。
- 委員会や普段の業務の中で他の職員に伝達していきたいと思う。
- 私程度ではまだ無理
- 地域でできれば実施したい。もう少し事例を作り、さらに自分自身の技術を磨き、地域の福祉センターで実技を教えてあげられるようにしたいと思う。
- やりたい思いと、自分のスキルをまずあげなければという思いの半々
- アメリカの施設にこのセミナーを申し上げ、小山様に是非来ていただけるよう頑張ります。
- まだまだ未熟すぎるから
- 先にチームを作りたいと思います。上層部からはNSTを打診されているので、SSTにも興味を持ってもらえると思います。
- まだ、知識が浅いので、1人では難しいですが、、、、数回、セミナーを受講して、指導の仕方が分かれば、企画できるかもしれません。
- 本年度9月、庄内地区で小山先生にご講演頂き、来年度も、実技を交えた形なども含めて、またご講演していただく希望あり、お願いしているところです。
- しっかりとしたスクリーニングをやってみたい
- 少しでも浸透させて行き、正しい位置で楽しく利用者さんに食べて貰えるようにしたいと思います

- 12月にヘルパーさん向けの食事介助の院内勉強会が予定されているので、そこで今回の内容を伝達できればと考えます。看護部主催のため上司に相談してみます。
- 介護の人材の育成に活用したいと思います
- 多職種でこの知識を共有する事が必須だと思うため。
- 正しい介助方法で介助をしてほしいので、病院や施設の職員の方へ勉強会がしたいと思ってます。
- 全体意識を統一し、高めていきたい。入居者様の尊厳を保つ手助けとなる為。
- 本当は企画したいが、非常勤のため遠慮する気持ちがある。周りがそこまでの意識がなく賛同してもらえないか不安。
- 前回参加した後に病棟で研修報告をしました。その後、食事のセッティングなど、以前より時間をかけてできるようになったので、もっと広めたい。
- 食事介助による影響というのが理解できていないスタッフが多いため
- 多分自施設でもよく分からずなんとなく食事介助している人が多いと感じるため。STさんと協力してやっていきたい。
- もっと学んで、KTチャートを実際に使って、スキルを実践できるようになって自信がついたら企画してみたい。
- お世話になっております。
- もし自分の周りに、家族が口から食べることが出来ずに悩んでいる方がいれば、この講座のことを教えます。今後もし自分に何かできることがあれば、積極的にこの活動を広められればと思います。
- 自己の実技をより確実なものにしてから実施したい。
- 患者役になり、体験する機会は絶対必要
- セミナーで学んだことは、院内で共有し、多職種交えて実技形式でも行えたらと思う。
- 多職種が協力してできると。そのためにともに実践する仲間が増えていくことだと思います。

Q5 今後取り上げてもらいたい内容は？

- 今回は基礎的なことだったので、様々な症例の人の摂食嚥下について、など聞いてみたいです。
- 先行期障害の患者さん、声掛けやおいを嗅がせたりと対応していますが、その時だけで食べることが続かないことがあります。
- 院内の他職種に対して、どのように基本を学んでもらうか
- KTチャートの具体的な運用方法、病院もしくは地域在宅での連携をどうつなげるべきか ゼロから地域で始めるには。
- 口腔ケアについて。例えば、化学療法の副作用で口内炎などがひどく口腔ケアがうまくできない患者への援助や口内炎などによって食事がままならない患者への援助方法について取り上げて頂きたいです。
- 今後も今回のような実技を教えてください
- 先行期問題（様々ですが）での工夫。四肢の拘縮が強かったり、円背の強い人の姿勢調整
- 神経筋疾患
- 栄養学 とろみの付け方など

- 認知症の方、進行性筋疾患など、病態別のケアの仕方など
- 症例別（具体的）に食事介助方法を学びたい
- まだ、初回なのでマスターできるように、復習することが第一だと思った。
- 事例に沿った対応の仕方を学びたいです
- 唾液誤嚥か食事誤嚥の比較など視診などからの発見
- 仮想のケースについて評価、介助を一通り学べると実践に繋げやすいかと思います。
またそれぞれどのように広める活動をしているか。特に在宅に関わる方達の話が聞けると嬉しいです。
- 症例検討
- 評価から食べられるようになった経過などの症例検討
- 終末期の経口摂取の進め方、口腔ケア、嚥下訓練
- とある事例に対して、シュミレーションでもいいですから、こういう状態には、こういう食事形態で、こういうものをこのようにして食べさせなければいけないというようなセミナーを期待しています。自分たちでも、考え中です。
- 医療関係者の方のための講座とは別に、介護する家族や一般の方向けの講座があれば、きっととても沢山の方が体も心も救われると思います。
- 実技をより確実なものにするために、研修をシリーズにして実施して欲しい。基礎の研修から段階を経て応用編までいけるようなシステムであると、自己の課題を達成できると感じた。
- 口を開けない方への対応
口腔ケア(口腔衛生ではなく、マッサージ等の緊張をほぐすケア)
- 口腔機能向上リハビリ、食事形態アップの見極め
- 呼吸状態の痰貯留の有無の確認、呼吸数、咳嗽力、排気量、SPO2、を知りたい。また、体位排痰、吸痰技術も取り上げてもらいたい。

～セミナー風景～



普段、現場で実施されているポジショニングやスクリーニング評価、食事介助技術を患者体験を通して見直し、根拠に基づいた適切な援助技術を学びます。



☆グループでハイ!チーズ☆





**第39回東京実技セミナー
ご参加ありがとうございました！！**

